

Devotion Guide/ユースマナ Youth Manna マルコ1:35 さて、イエスは朝早く、まだ暗いうちに起きて寂しいところに出かけて行き、そこで祈っておられた。	2022/9/26(月) エゼキエル15章 ●2vの「ぶどうの木」は何をたえているかな？ヒントは6v. ●どうして「ぶどうの木」は燃やされると言われているかな？2,8vを読んで考えてみよう。 イスラエルは自分こそ選ばれた民だと高慢になっていた。神様の恵みを忘れ、信頼を裏切っていた。その結果、バビロン捕囚を招いてしまった。 ●当時のイスラエルの姿から自分と重なりを感じることはあるかな？神様の信頼にこたえるために、改善できることがあるか考えてみよう。	2022/9/27(火) エゼキエル16:1-22 エルサレムの罪の歩みが描かれている箇所だよ。ユダヤ人はエルサレムを聖なる都として誇っていたけれど、それはただ神様がそのように選んでくださり、恵みによって生かされ、神様が結んでくださった契約により神様のものとされたからなんだ。神様は最高のものでエルサレムを装ってくださったんだね(3-14) だけど(15-)エルサレムは墮落して神様から離れ、偶像礼拝の道へと進んでいってしまう。神様とエルサレムの関係は婚姻関係に例えて語られているけれど、エルサレムの罪がどれほど神様の心を傷つけていたかをこの箇所から考えてみよう。あなたと神様の関係はどうか？神様以外に自分の心を満たそうとしているものはないだろうか。神様こそ第一に愛すべき方であることを覚えよう！	2022/9/28(水) エゼキエル16:23-43 この箇所で神は、姦淫の例えでエルサレムの偶像礼拝を非難しておられる。この時代の宗教の影響は、日常生活や政治にまで幅広く及んでいた。「ああ、何ということか」(23)という神の悲痛な叫びは、姦淫が公に行われるようになったことへの嘆きである。 26節からは、エジプト人、ペリシテ人などの他民族との関係が非難されている。イスラエルは生き残るために他国と交流したり、協定を結んだりしていたが、それは神への信頼を欠いた行為であり、神の目には「姦淫」であった。問題に直面したときに自分の力で取り組もうとすることはないだろうか？そのような時に、まず神に信頼を置けるよう祈ろう！
2022/9/29(木) エゼキエル16:44-63 神は、エルサレムが先に滅ぼされたサマリア(北イスラエル王国の首都)やソドムよりと酷いと語られている。 44v「あなたは、すべての道において彼女たちよりも墮落してしまった」 51v「サマリアもあなたの罪の半分ほど罪深くはなかった」 エルサレムには神殿が建てられ、契約の箱も置かれている神の特別な場所と考えるといかに酷かったかが想像できる。 しかし、53節からは回復の預言がされている。 神様は罪に対してただ赦すことはされない。しかし本当に悔い改めるとき全てを赦される。 神様の愛を覚えよう！愛を实践しよう！！	2022/9/30(金) エゼキエル17章 ▶ユダ王国の21代目の王様エホヤキンがバビロンに降伏したあと、バビロンは22代目の王様としてゼデキヤを任命した。今日の箇所はこのゼデキヤ王についての話だ。 ▶ゼデキヤ王(若枝の先、ぶどうの木)はバビロン(大鷲)の意のままに動く王として一定の力を得ていた。神様はゼデキヤにバビロンに仕えて生きるように言われていた(エレミヤの27:12)。しかし、ゼデキヤはエジプト(もう一羽の大鷲)の力を得ようとした。またも神のこぼに背いたユダ王国は滅亡する。 ▶一方22-24節をみると、主は高い杉(エジプト、バビロンなど)を取り去り、若枝の先をイスラエルの高い山にうえると語られている。主権は主にあることを覚えて、ウクライナとロシアの平和のために祈ろう。	2022/10/1(土) 詩篇136篇 「主の恵みはとこしえまで」と繰り返し繰り返し歌い語られているいるね。その言葉の前には旧約聖書で私たちも知っているような歴史上神様がなさった具体的なことをたくさん歌っているね。私たちが信じている神様は、私たちが見える個人的なことも、世界、歴史といった広く深いことも全てを知って治めている方なんだ。その偉大な神様がしてくださった恵みを思い出して書き出してみよう！そしてその神様のために今日どんなことができるかな？考えてみよう！	2022/10/2(日) 詩篇137篇 私たちは何を自分の「至上の喜び」としているだろうか。他の何にも勝る、この上ない喜びとはなんだろうか。 この作者はエルサレムを至上の喜び、主に礼拝を捧げることを何にも勝ることとして、大切にしていた。だからこそ、エルサレムを思って泣いたんだね。 あなた自身が最も喜びとしていることはなんだろう？何を一番に生きているかな？ 静まって、考えてみよう。